

[農業経営部門]

農業研究所ホームページへ

2. 水田作経営における新規就農の課題とその対応策

[要約]

水田作経営において新規就農を成功させるには、研修生は受入農家、地域及びパートナーとの信頼関係を構築し、地域の担い手となる心構えが必要である。一方、受入側は受入農家の掘り起こしや大きな初期投資をしないで収益の蓄積が可能な支援が重要となる。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 作物・経営研究室

[連絡先]電話 086-955-0275

[分類] 情報

[背景・ねらい]

水田農業の維持発展においては内部継承が難しい場合でも、第三者継承等や「のれん分け」による新規就農等で担い手が確保される必要がある。そこで、水田作経営において新規就農者等が安定的に経営を始めるための課題をヒト及びモノ・カネの視点に分けて整理し、その対応策を提示する。

[成果の内容・特徴]

- 1. 水田作経営における新規就農の共通した課題をヒト及びモノ・カネの視点で整理した (表1)。その中でも重要なのは、ヒトの視点では、水田作における研修受入農家が少な いこと、受入農家との信頼関係を構築すること、就農におけるパートナーの理解である。 モノ・カネの視点では、条件の良い農地の借入が困難なこと、農業機械等を導入するため の大きな投資が必要なこと、就農当初の資金繰りに苦労することである。
- 2. 水田作経営の新規就農における課題への対応策をヒト及びモノ・カネの視点で整理した (表2)。ヒトの視点では、研修生は受入農家、地域及びパートナーとの信頼関係を構築 し、地域の担い手となる心構えを持つとともに、経営者としての資質向上を図ることが必 要である。
- 3. モノ・カネの視点では、就農者が条件の良い農地を借りやすい環境を整備すること、行政等が資金申請の書類作成等の就農者の困りごとについて支援を強化すること、就農者が大きな初期投資をしないで収益の蓄積が可能な対策を講じることなどが重要となる(表2)。

[成果の活用面・留意点]

- 1. 本情報は、岡山県に水田作経営で新規就農した農家(2戸)、その受入農家(1戸)からの聞き取り調査により作成したものである。
- 2. 水田作経営の新規就農者の支援に活用できる。



[具体的データ]

表1 水田作経営における新規就農の課題

項目		
보 ㅏ	・水田作における研修受入農家が少ない・受入農家との信頼関係の構築・短期間の研修(水稲2作)での就農・就農におけるパートナーの理解・経営者としての資質向上	
モノ・カネ	 ・条件の良い農地の借入が困難 ・農地の借り換えの手続きでの苦労 ・当初、地域特有の水管理や風習等の情報が少ない ・農業機械等を導入するためには大きな投資が必要 ・就農当初は資金繰りに苦労 ・米価低迷による収入の減少と肥料費等の物財費の高騰 	

注) 新規就農者及び新規就農者の研修受入農家への聞き取り調査より作成、表2も同様、なお、共通した意見を太字斜体とした

表2 水田作経営の新規就農における課題への対応策

項	目	内 容
Ł	ŀ	①研修受入農家の掘り起こしと登録制度の構築
		②研修前に受入農家と研修生のマッチングを第三者(行政等)を
		交えて実施。研修中にも両者が話合いを十分に行い、受入市町
		村もその状況を把握しておくこと
L		③就農説明会等に参加するまでにパートナーと就農について十分
		な議論を行い、理解を得ること
		④様々な研修等の活用や受入農家等との交流による経営者として
		資質向上を図ること
モノ・カネ		①研修を真面目に受け、地域の住民等と積極的に交流を行い、受
		入農家や地域からの信頼を高め、農地を預けてもらいやすい環
		境を整備すること
		②農地の借り換えや資金申請の書類作成等の就農者の困りごとに
	カラ	ついて行政等の支援の強化
	スト	③農業機械や施設等は就農から一定期間、受入農家またはJA等
		から借り入れできる体制の整備、中古機械等の購入の斡旋な
		ど、大きな初期投資を抑制すること
		④就農時には複数年の生活資金や運転資金を準備しておくととも
		に、運転資金の借入等を進めること

[その他]

研究課題名:水田農業における次世代への経営継承課題の解決策の確立

予算区分・研究期間:県単・令2~4年度

研究担当者:河田員宏

関連情報等:試験研究主要成果、令4 (85-86、89-90)